

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織能力の向上	1 中長期的な重点目標（組織能力4） 「危機管理体制の整備・徹底・充実・・・」 (1)防災訓練を年2回実施する。 (2)第1回防災訓練では、災害備蓄米を活用して炊き出し訓練を実施する。 (3)第2回防災訓練にあわせて、三角巾による包帯法講習を地域住民に参加を呼びかけて実施する。 2 めざす学校像「3・・・環境教育を充実を図り、・・・」 (1)全教職員対象のISO教育訓練（研修）を実施する。 (2)ISO14001第4回再認証審査外部審査に向けて全教職員が共通認識のうえ取り組む。 (3)生徒向けの啓発行事として、6月の環境週間、10～11月に環境月間を設定し、全校をあげて取り組む。 (4)農芸祭模擬店にリユース食器を導入。 (5)年間を通じて、ペットボトルキャップを回収するエコキャップ運動に取り組む。 3 様々な教育活動の充実、HPの充実や教育成果の報道などを積極的に取り組むことで、生徒一人ひとりが誇りに思える学校づくりを推進する。	1 中長期的な重点目標（組織能力4） 「危機管理体制の整備・徹底・充実・・・」 (1)2回実施できた。 (2)炊き出し訓練を実施した。 (3)三角巾包帯法講習には、地域住民約20名に参加していただき実施した。 (4)授業（実習）時間中に、生徒に関わる事故が発生した。 2 めざす学校像「3・・・環境教育を充実を図り、・・・」 (1)計画通りISO教育訓練を実施した。 (2)ISO14001外部審査に向けて、全教職員で取り組み、再認証審査をクリアした。 (3)環境週間、環境月間ともに全校をあげて取り組むことができた。 (4)農芸祭非公開日にリユース食器を導入した。 (5)教職員の共通理解のもと、生徒たちの協力を得てエコキャップ運動に取り組むことができた。 3 平成26年度における退学者は、1名にとどまった。	1 前年度に学校農場で生産した米を備蓄し、防災訓練に合わせて炊き出し訓練を実施した。また、全校生徒に三角巾を貸与した。河原田地区市民センターを通じて講習への参加を呼びかけ、生活福祉コースの生徒たちが主体となって、三角巾包帯法の講習を実施した。地域との協創活動の視点においてたいへん意義ある取組ができた。一方、授業時間中の事故を受け、教職員全員で安全教育の徹底を再認識するとともに危機管理マニュアルの見直しを実施した。 2 教育現場におけるISO14001認証取得の意義を全教職員が再認識し、本校教育活動について自信をもって地域社会に発信していけることが確認できた。9月には再認証審査に向けて全教職員で取り組み、意識を高めることに繋がった。環境週間及び月間、リユース食器、エコキャップ運動の展開を通し、本校が独自に実施している全校生徒対象満足度調査で、環境教育の充実を感じている生徒の割合が、93%と高率を示している。 3 生徒対象満足度調査によると、「本校へ入学したことへの満足度」が、91%に達しており、様々な組織力の向上による成果と考えられる。

1 中長期的な重点目標（教科指導）
「専門的知識を高め技術を習得するため、専門教科の指導を強化する。」
(1)農業クラブの更なる活性化を図り、県大会最優秀賞4以上、東海大会最優秀賞2以上、全国大会優秀賞以上6つ以上の獲得を目標とする。
(2)家庭学科2・3年生の生徒は、各種コンクール・ショーに各自が1つ以上出品するよう指導する。
(3)「若き『匠』育成プロジェクト事業」「協創活動支援事業」等を活用し、専門教科の充実に努める。

2 中長期的な重点目標（農業及び家庭）
「キャリア教育、起業・ベンチャー教育の更なる充実を図る・・・」「スペシャリストの育成を図る・・・」
(1)農業学科では、地域から期待される農芸高校を目指し、地域開放的な取り組み、各種イベント、小中学校への出前授業等へ積極的に参加し、地域連携の強化を図る。
(2)家庭学科においても、地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒がコースの特色を生かして地域との関わりを持つことで、専門性を深める。

1 中長期的な重点目標（教科指導）
「専門的知識を高めるため、専門教科の指導を強化する。」
(1)農業クラブ全国大会優秀賞2にとどまった。一方、全国産業教育フェアフラワーアレンジメント県大会で最優秀賞を獲得し、全国大会へ出場した。
(2)各コースの特性を活かして全員が応募できた。
(3)左記の各事業の指定を受け、充実した専門教育活動を展開することができた。

2 中長期的な重点目標（農業、家庭）
「キャリア教育、起業・ベンチャー教育の更なる充実を図る・・・」「スペシャリストの育成を図る・・・」
(1)農業学科における地域での農産物販売、みのりの丘マーケット等へ参加した生徒の満足度は、今年も100%であった。
(2)家庭学科では、河原田地区セミナー、河原田小学校並びに学童保育所との交流、高齢者との交流、地域女性会を始めとする住民との交流を行った。いずれも地域からの要望が高く、生徒の満足度も高い。

1 (1)農業クラブプロジェクト発表において、県大会で最優秀賞を獲得した発表が1本あり、東海大会出場権を獲得した。全体的な底上げと、全国大会出場に向けてチャンスのある部門のグレードアップが必要である。
1 (2)家庭学科では、「きもの作品コンクール」で、1名が優秀賞を受賞する成果を収めたほか、食肉惣菜コンクールで全国大会に出場した。また、スクールプロジェクト県大会で最優秀賞を受賞し、27年度家庭クラブ全国大会への出場権を獲得するなど、多くの成果が得られた。
1 (3)「匠」事業では、2名の生徒が技能五輪出場を果たし「敢闘賞」を受賞した。「協創活動」では、みのりの丘マーケットを通して地域住民と交流し、様々な意見をいただきながらマコモを食材とした商品「マコモダケカレー」を開発した。その他、備蓄米を利用した防災訓練や地域住民参加による三角巾包帯法講習を実施した。

2 地域連携に関わった生徒の満足度は非常に高い。地域連携が単に「楽しい」というイベント的な催しではなく、生徒が地域の人々を指導したり、コミュニケーションを図る中で、専門性を深め、自信に繋げることができる利点があり、校内の学習だけでは得ることのできない効果が期待できる。家庭学科は、長年続けていた地域の独居老人へのデイサービスに代わり、授業の中で専門性を活かした作品を民生委員を通じて届ける取組を新たに起こした。「協創活動」では、みのりの丘マーケットを通して「マコモダケカレー」を商品開発した。その他、備蓄米を利用した防災訓練や地域住民参加による三角巾包帯法講習を実施した。

1 中長期的な重点目標（生徒指導2）
「秩序ある学校の雰囲気大切に、挨拶と人を思いやる気持ちを持つ生活態度の育成に努める。」

(1) 全生徒・教職員の80%以上が挨拶が出来ると感じる。

(2) 全生徒・教職員の80%以上が状況に応じた言葉遣いができていると感じる。

(3) 全教員が生徒に対しての声掛けが出来ていると感じる。

(4) 担任と生徒指導部の連携強化、問題行動の抑止

(5) 学校行事を良かったと感じる生徒が85%以上を目指す。

(6) 問題行動の抑止

2 中長期的な重点目標（生徒指導5）
教育相談及び特別支援教育の充実を図る。

(1) 委員会を主体に推進し、機能を充実させるとともに、教育相談担当者と担任との連携を図る。

1 中長期的な重点目標の生徒指導
「秩序ある学校の雰囲気大切に、挨拶と人を思いやる気持ちを持つ生活態度の育成に努める。」

(1) 生徒94%達成、教職員78% 未達成

(2) 生徒85%達成、教職員69% 未達成

(3) 100%達成（回答率71%）

(4) 担任と生徒指導部などで生徒の情報を共有することで多面的な指導ができている。

(5) 87% 達成

昨年の90%に比較して3ポイント低下

(6) 特別指導は、8件17名（昨年5件5名）で、一昨年並みの数値となった。生徒に関わる機会を増やすことで抑止に繋がっていると思われる。心配な場面は多く、引き続き粘り強い指導が求められる。

2 中長期的な重点目標（生徒指導5）
教育相談及び特別支援教育の充実を図る。

(1) スクールカウンセラーや発達障がい支援員を活用し、関係生徒の対応をした。

1(1)挨拶はできるが元気が足りないと感じることも多い。「挨拶は農芸の心」としてより高いレベルの挨拶ができるよう指導を継続したい。

1(2)言葉遣いについては、生徒と教員の意識の差があり、教員間にも意識の違いがある。教員研修等により考え方をそろえたい。

1(3)声掛けから始まる生徒と教員の交流が本校の強みである。学校文化として継続していく必要がある。アンケート回収率の低下が気になる。

1(4)生徒指導部として生徒情報を収集し、学年団と共有していきたい。

1(5)各部署の取り組みにより、生徒は充実していると感じているが、「誰かが楽しませてくれる」という受け身意識の生徒の存在も感じる。一方、生徒会役員には、たくさんの生徒が立候補し、行事運営等は活性化しているように思われる。

1(6)登下校指導や週1回の生活点検、日常清掃におけるゴミ分別指導など、生徒に関わる機会を多くつくることが問題行動抑止にも繋がっていると感じる。

1(7)その他

生徒の満足度調査で、「生徒指導の徹底」「エチケット・マナー指導の充実」に対する満足度が各々95%、93%を示し、高水準にあることが判明した。

2 本年度は、スクールカウンセラーが配置され、より専門的な対応が可能になった。悩みを抱える生徒も依然たくさん在籍しており、スクールカウンセラーの業務時間数増加が望まれる。

1 中長期的な重点目標（進路指導1）

「進路に対する意識を高め、一人ひとりの進路実現に向けた指導に取り組む。」

(1) 1学年は勤労観と自己理解を深めるため、進路講話を3回以上実施する。

(2) 2学年は、総合学習の時間を通して、自己の進路実現に向け自主的な行動がとれる能力を養い、全員の生徒が就職・進学の意味決定を目指す。

(3) 3学年は、進路決定に向けて学年と協力し、進路未決定者0を目指す。

(4) 3学年団、学科と連携し、過去の実績をもとに150社以上の事業所を訪問する。生徒の企業見学に積極的に取り組み、生徒が企業を理解し応募決定ができるよう努力する。

(5) 学年・学科との連携を強化し、四大進学希望者への早期指導に努める。また、進学課外を体系的に実施する。

(6) 2学年の全ての生徒を対象にインターンシップを実施し、進路を考える上での職場体験を実施する。また、職業選択能力や働くことに対する望ましい見方・考え方を育てる

1 中長期的な重点目標（進路指導1）

「進路に対する意識を高め、一人ひとりの進路実現に向けた指導に取り組む。」

(1) 1学年は、1学期1回、2学期1回、3学期2回の進路講話を実施（達成）

(2) 2学年の進路総合学習を実施、生徒全員が進路希望の意思決定ができた。

(3) 3年生進路未決定者0名（達成）

(4) 企業訪問:168社

（達成、昨年比計8社減）

生徒の企業見学延べ数:428人

(5) 四大進学18名（専門分野9名）

(6) インターンシップを1月末にかけて4日程度実施した。実施にあたっては、受け入れ先の確保、企業訪問、生徒との打合せなど全教職員の協力が得られた。また、インターンシップ報告会を実施し、生徒間で状況を共有するとともに、1学年の生徒にも参加させることで、次年度に繋げるよう配慮した。

(1) 1学年では、3学期に卒業生による進路講話「ようこそ先輩」を実施したところ、非常に有効であった。

(2) 2学年の総合学習の中で、インターンシップを含めた計画的なキャリア教育を実施した。

(3) 進路未決定者への支援・指導を粘り強く継続していく必要がある。就職支援相談員やジョブサポーターの支援効果が大きく、今後も継続して要請したい。1・2学年でも2回進路希望調査を行ったことにより、進学希望者を早期に把握することができた。

(4) 継続した企業訪問により、企業との連携を深めていきたい。

(5) 進学希望者対象の実力判定模試結果の活用が課題である。また、専門性を生かした進学希望者をどのように指導していくか、学年、学科・コース、教科との連携を密にして推進する必要がある。

(6) インターンシップでは、参加生徒の事前指導のあり方に課題を残した。3年生では、アルバイト希望者が減少し、正規採用への意識が強まる傾向がみられたり、進路未決定者が0になるなど、インターンシップの効果と思われる結果が得られた。一方、教職員は、概ね肯定しながらも、日常業務への負担感など様々な意見がある。今後意見集約しながら定着に向け改善策を講じていく必要がある。

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強 み	1、本校は、2002年にISO14001を認証取得して以来、環境教育を充実させてきた。本年度は、第4回の再認証取得に向けて全教職員で取り組んだ。そうした取り組みを実践して再認証を取得したことで、環境マネジメントシステムに関する認識を全職員が一層深めることができた。また、校内研修により教育現場における環境マネジメントシステムの意義を確認し、各教員が環境教育を授業実践することで、本校組織の一員であるという意識を高め、目指す学校像実現に向けて心をつなげることができた。また、リユース食器の導入、環境週間・環境月間（環境に関する授業を含む）、エコキャップ運動など、生徒対象の環境教育を実践することにより意識啓発に努めることができた。 2、平成23年度に実施された河原田地区合同避難訓練を受けて、教職員間に防災意識が高まり、本年度も防災訓練を2回実施した。第1回は昨年度に災害時を想定して備蓄してきた学校農場産米を使って、全校生徒並びに教職員向けに炊き出し訓練を実施した。この取組は、「平成26年度MIE職員力アワード」に応募したところ、評価をいただくコメントを多くの審査員からいただいた。第2回は、全校生徒に三角巾を貸与し、必要なときに誰でも活用できるよう、生活福祉コースの生徒が中心になって、全校生徒に使用法の講習を実施した。その際、河原田地区市民センターを通じて河原田地区住民に参加を呼びかけ、地域住民も参加して実施することができ、地域の中にあって、高校が果たす役割の一端を考える機会にできた。 3、インターンシップの実施や積極的な企業訪問による求人活動などが功を奏して、3年生の就職指導において「正規採用」への意識を強めることができ、就職希望生徒の全員が卒業までに内定できた。また、進学指導では、18名が4年生大学へ進学を決めた。うち、9名が農学系並びに家庭学系の専門分野であった。これらは、全教職員が関わっての面接指導、普通教科と専門教科が一体となった課外指導の成果である。特に、進学指導においては、3年前のカリキュラム委員会で議論した進学課外のあり方に関する方向付けが活かされたものとする。 4、基本的な生活習慣（挨拶、服装、身だしなみ等）に関する指導は、全教職員の共通理解による指導が確立されている。生徒の満足度調査において、生活指導の徹底に対する満足度が、さらに上昇している。 5、クラブ活動が年々活発になり、たくさんの生徒が積極的に取り組み、その成果も多くのクラブでみられるようになってきた。
弱 み	1、環境マネジメントシステム（ISO14001）を維持していくための経費が学校運営費で賄っているのが現状である。 2、全校的なインターンシップを導入して3年目になるが、受け入れ先の開拓や参加させる生徒の事前指導等に課題を残した。 3、専門教育において、教職員の専門性を向上させる必要があるが、教職員の育成体制や研修体制が必ずしも十分とは言えない状況がある。 4、最先端の専門教育（農業、家庭科）を実践するためには施設が不足する。生徒の満足度調査においても「学校設備の充実」に対する満足度は、他の項目に比べて低い状況がある。特に、家庭学科における生活福祉コースの施設設備は、生徒たちの期待に応えられるような福祉介護の教育を展開するための設備が不足しており、改善の必要がある。 5、クラブ活動の伝統を守り、育てていくための人的配置に課題がある。 6、教職員の勤務時間縮減について、会議の設定など配慮してはいるものの、抜本的な取り組みには至らなかった。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞	1回
実施内容	○委員会としては、3月に1回開催 ○「農芸祭」「卒業式」に来賓として来校いただき、教育活動の様子を視察していただく。 ○各評価委員の専門分野に応じて相談を持ちかけ、支援をお願いしている。例えば、様々な地域連携活動の実施にあたり、市民センター館長や自治会長に相談することで、円滑に推進するとともに、評価委員として参加していただく。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	○県の様々な事業を活用され、専門教育の充実に取り組まれている。また、地域連携の取組は農業学科、家庭学科とも積極的に行われている。地域連携を学習活動の向上に活用していくことは、学校教育にとどまらず、地域の活性化という視点でも有効な手法である。地域の実情等の変化により、長年にわたって取り組まれてきた一部の事業見直しも行われたが、新たな展開を試みられており、発展させていただきたい。 ○学校農場産米を災害備蓄用に活用するという、農業高校ならではの新たな取り組みが実践された。地域を含めた活用方法を検討されると良い。 ○就職指導、進学指導両面で成果を収めている。2学年でインターンシップを実施されていることは意義がある。生徒の要望に応じていくために、受け入れ先を拡大させていく必要がある。地元で活躍している同窓会メンバーへの働きかけも一つの方法である。

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
1、北勢地区における農業と家庭科の唯一の専門高校として本校の存在意義と農業教育・家庭科教育のあり方について深く議論し、教職員の共通認識を深めるとともに、学校づくりの新たな戦略を確立する。	
2、最先端の魅力ある専門教育を実践させ、生徒の学力を向上させるために、授業研究を充実させるとともに、教員の研修機会を増やし、教員の技術力、指導力向上に努める。また、新鶏舎の教育的な活用について研究を深める。	
3、環境教育については、過去の成果を踏まえ、教職員組織の中で引き続き共有しながら充実発展を図る	
4、計画的なキャリア教育を推進し、進路保障を一層充実させる。特に、インターンシップはその効果が大きく、諸課題を踏まえてさらに充実した運営ができるよう検討を進める。また、進学指導としての課外授業の充実と、求人確保のための企業開拓を引き続き推進する。	
5、教育相談及び特別支援教育について、スクールカウンセラーを有効活用しながら教職員の共通理解を深め、推進体制を充実させる。	
6、本校の魅力を理解してもらうための学校説明会や高校生活入門講座を充実させるとともに、積極的に中学校訪問し志願者の確保に努める。	
7、本校恒例の「体育祭」「農芸祭」「文化部合同発表会」などの行事を充実させるとともに、保護者の参加を積極的に働きかける。	
8、HPの日々の更新に努めるとともに、研究紀要「額の汗」(本校の教育実践報告)の発刊等により、情報発信の充実を図る。また、報道機関への情報提供、地域連携、中学校連携等をさらに推進する。	
9、学校関係者評価委員による意見の活用を図る。	
10、授業公開は、保護者が生徒たちの学校での様子を見てもらう機会となっている。PTA役員とも引き続き協議を重ね、参加者の増加を図る。	
11、生徒・保護者の満足度、教職員の満足度がより高くなるよう実態を把握し、弱みについて対話を中心にして改善策を見出す。	